

第2次国東市スポーツ推進計画

**平成31年3月
国東市教育委員会**

目 次

第1章 計画の策定にあたって	1
1 計画の趣旨	1
2 計画の位置づけ	1
3 計画の期間	2
4 本計画における「スポーツ」の定義	2
5 計画の背景	2
第2章 現状と課題.....	4
1 人口・世帯の状況	4
2 小中学生のスポーツの状況.....	5
3 体育施設利用状況	10
4 第1次計画の評価とまとめ.....	11
第3章 基本的な考え方と目標	16
1 基本理念	16
2 計画の目標	17
3 施策体系	18
第4章 目標の達成に向けて	19
施策の展開.....	19
第5章 計画の推進に向けて	30
計画の進捗管理	30

第1章 計画の策定にあたって

1 計画の趣旨

スポーツは、体を動かすという人間の本源的な欲求に応え、精神的な充足をもたらすものです。加えて、スポーツ基本法において、スポーツは「心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自立心その他の精神の^{かんよう}涵養等のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動」と広く定義されており、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、すべての人々の権利」とされています。

また、スポーツには、競技としてルールに則り他者と競い合い、自らの限界に挑戦するものや、健康維持や仲間との交流など多様な目的で行うものがあります。文化としての身体活動を意味する広い概念であるスポーツは、各人の適性や関心に応じて行うことができます。このように、あらゆる人が行なうことのできるスポーツは、それを通じて楽しさや喜びを得られるものであり、それこそがスポーツの価値の中核といえます。ここにあって、本市としては、市民が、生活の一部にスポーツを取り入れることで、明るく豊かな生涯を送れるような環境の構築に取り組む必要があります。

本市では「健康とスポーツを基本とした健やかで生き生きと暮らせる国東市～スポーツのある暮らし～」を基本理念として、平成26年3月に「国東市スポーツ推進計画（以下「第1次計画」という）」を策定し、「多様な参加ができる『する』スポーツの充実」「魅力ある『みる』スポーツの充実」「感動を分かち合う『ささえる』スポーツの充実」「気軽に利用できる『場所』の充実」「スポーツを『する』『みる』『ささえる』きっかけづくりのための『情報』の充実」を基本施策として、すべての市民にとってスポーツが「欠くことのできない大切なもの」となるよう、スポーツ環境の向上に努めてしてきました。

こうした取り組みを評価、検証し、さらなる発展へとつなげるため、生涯スポーツ社会の実現にむけたスポーツ振興を推進し、年齢や性別を問わず、広く市民がその適性やライフステージに応じて参画できるスポーツ、及び障がいのある方が気軽に取り組めるスポーツを通じて、共生社会の充実を図るとともに、国際的かつ様々な事業分野の視点に立ちながら、中長期的な展望を具備したスポーツ施策の指針を立てるため、「第2次国東市スポーツ推進計画」を策定します。

2 計画の位置づけ

本計画は、国の「第2期スポーツ基本計画」とともに、大分県の「大分県

スポーツ推進計画改訂版」及び「国東市総合計画」をはじめ、本市の関連計画との整合性を図りながら、本市におけるスポーツ分野の施策をより具体化するものとして位置付けます。

また、本市がスポーツ実施率の向上をめざし行った取り組みを継続・発展させるとともに、年齢や性別を問わないスポーツの推進及び障がい者スポーツへの取り組み、そして、スポーツを活用した健康増進や観光推進のためなどのスポーツ分野の施策を体系化し、目指す方向や取り組みの内容を具体的に示します。

3 計画の期間

本計画は、平成 31 年度（2019 年度）から平成 40 年度（2030 年度）までの 10 年間の本市スポーツ推進の目標と目的達成のための方策を示すものです。なお、本計画に基づく施策の実施状況や成果等については、適宜把握しながら、具体的目標の達成について検証し、5 年を目途に計画の見直しを行ないます。

平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	平成 35 年度	平成 36 年度	平成 37 年度	平成 38 年度	平成 39 年度	平成 40 年度
第 2 次国東市スポーツ推進計画				中間見直し		第 2 次国東市スポーツ推進計画 (改正後)			

4 本計画における「スポーツ」の定義

本計画では、「スポーツ」の語義を幅広くとらえ、競技種目だけにとどまらず、レクリエーション活動や散歩・ジョギングなどの健康増進のための運動など、競技レベルや内容に関係なく、身体をつかった運動の全てを指すものとしします。

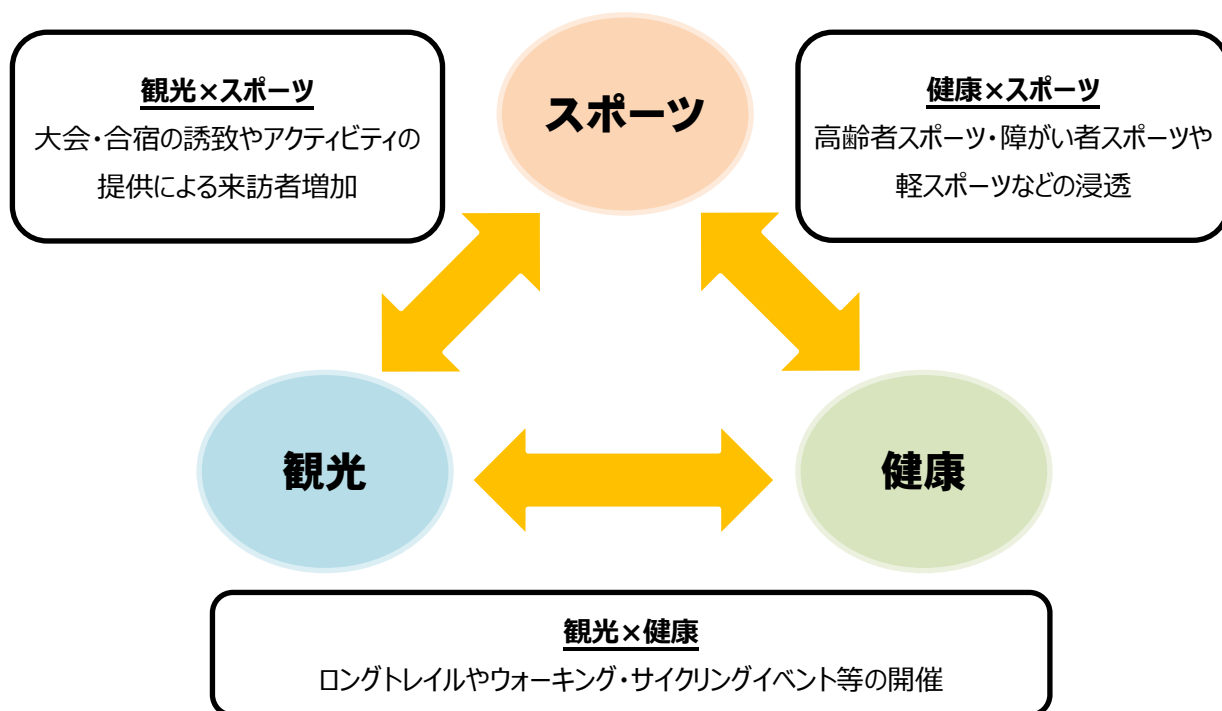
5 計画の背景

「楽しさ」「喜び」が価値の中核であるスポーツは、市民一人ひとりが自発的に取り組むことで自己実現が図られ、前向きで活力ある市民生活へとつながります。

本市では、「国東半島峯道ロングトレイル」や「とみくじマラソン」など、豊かな自然環境を活かした様々なスポーツが展開されています。また、「国東市健康づくり計画」に基づいた「健康応援レシピ」の作成や「さ吉くんで元氣！健康チャレンジ」事業の推進など、健康寿命の延伸に向けた事業も推進

しています。

市民が健康で暮らし続けるためのスポーツ活動、豊かな自然環境を活用したスポーツ観光の充実など、スポーツと健康、そして観光とが連携を図ることで、本市に住んだり訪れたりする人が「スポーツのある暮らし」を実感できるための多面的なスポーツ施策の展開を図ります。



ため池ウォーク



トレイルイベント

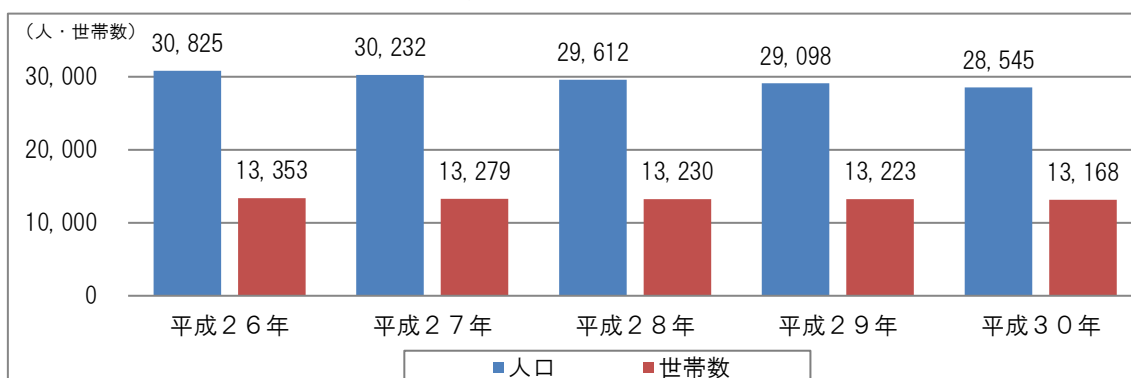
第2章 現状と課題

1 人口・世帯の状況

(1) 人口・世帯の推移

本市の人口及び世帯数の推移をみると、平成30年3月末の人口は、平成26年に比べて2,280人減少して28,454人で、世帯数は185少して13,168世帯と、いずれも減少傾向にあります。

【国東市人口・世帯数の推移（平成26年～平成30年）】

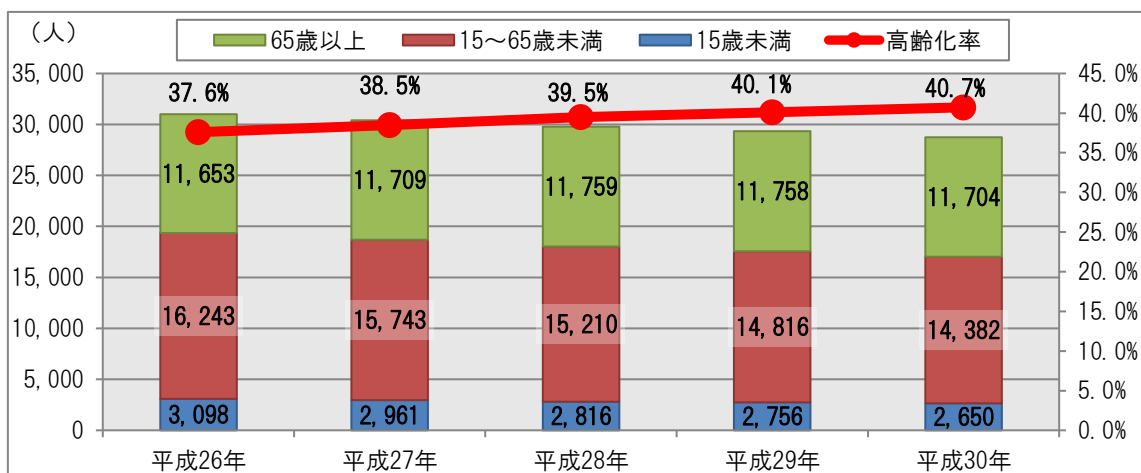


資料：国東市住民基本台帳から作成（各年3月末日現在）

(2) 年齢階層別の人口推移

本市の人口推移を年齢階層別にみると、65歳未満の人口が減少傾向にある一方で、65歳以上の人口は増加しています。それに伴って、高齢化率も年々上昇しており、平成30年には40.7%となりました。

【国東市の年齢階層別人口推移】



資料：国東市住民基本台帳から作成（各年1月1日現在）

2 小中学生のスポーツの状況

(1) 体力テストの結果

市内の小学校5年生と中学校2年生の体力テストの結果は、全国の結果と比較すると多くの種目で全国数値上回っていますが、今後も継続して体力向上につながる取り組みが求められます。

【体力テストの結果(国東・全国:小学5年生)】

種目	小学5年生男子 (国東市)	小学5年生男子 (全国)	対全国	小学5年生女子 (国東市)	小学5年生女子 (全国)	対全国
	平成29年度			平成29年度		
握力(kg)	17.54	16.90	0.64	16.65	16.71	▲ 0.06
上体起こし (回/30秒間)	20.65	20.72	▲ 0.07	19.83	19.35	0.48
長座体前屈 (cm)	33.72	33.62	0.10	37.75	37.90	▲ 0.15
反復横跳び (回/20秒間)	44.89	43.94	0.95	43.11	41.40	1.71
20mシャトルラン (回)	55.37	56.85	▲ 1.48	46.38	45.54	0.84
50m走(秒)	9.26	9.16	0.10	9.59	9.45	0.14
立ち幅跳び (cm)	154.16	155.43	▲ 1.27	150.00	147.45	2.55
ソフトボール投げ (m)	24.12	23.51	0.61	16.71	14.40	2.31

【体力テストの結果(国東市・全国:中学2年生)】

種目	中学2年生男子 (国東市)	中学2年生男子 (全国)	対全国	中学2年生女子 (国東市)	中学2年生女子 (全国)	対全国
	平成29年度			平成29年度		
握力(kg)	29.73	29.75	▲ 0.02	24.78	24.22	0.56
上体起こし (回/30秒間)	28.79	28.08	0.71	25.49	23.96	1.53
長座体前屈 (cm)	45.59	43.95	1.64	48.70	46.25	2.45
反復横跳び (回/20秒間)	55.52	53.45	2.07	49.57	47.73	1.84
20mシャトルラン (回)	91.35	89.93	1.42	61.62	61.52	0.10
50m走(秒)	7.77	7.80	▲ 0.03	8.59	8.66	▲ 0.07
立ち幅跳び (cm)	203.21	199.64	3.57	173.53	172.06	1.47
ハンドボール投げ (m)	21.38	21.29	0.09	14.09	13.35	0.74

資料：体力・運動能力調査

(2) 中学校運動部活動状況

市内の中学校運動部活動の生徒在籍状況をみると、少子化の進行に伴って学校によって競技種目が限られていることから、学校間や地域スポーツ団体での連携の重要性が高まっています。

【生徒在籍状況(平成30年5月現在)】

単位:人

学校／性別・学年		軟式 野球	バレー ボール	剣道	ソフト テニス	卓球	サッカー	柔道	陸上 競技	学年別 合計
国見中学校	男子1年	5	-	1	3	3	-	-	-	12
	男子2年	-	-	-	4	2	-	-	-	6
	男子3年	6	-	1	5	2	-	-	-	14
	計	11	-	2	12	7	-	-	-	32
	女子1年	-	4	5	-	5	-	-	-	14
	女子2年	-	5	5	-	2	-	-	-	12
	女子3年	-	7	1	-	6	-	-	-	14
	計	-	16	11	-	13	-	-	-	40
国東中学校	男子1年	9	-	4	3	9	7	-	-	32
	男子2年	15	-	1	6	4	9	2	-	37
	男子3年	10	-	2	10	6	5	9	-	42
	計	34	-	7	19	19	21	11	-	111
	女子1年	-	8	4	7	5	-	-	-	24
	女子2年	-	3	2	10	7	-	3	-	25
	女子3年	-	1	3	12	9	-	1	-	26
	計	-	12	9	29	21	-	4	-	75
武蔵中学校	男子1年	7	-	-	-	4	-	-	-	11
	男子2年	7	-	-	-	8	-	-	-	15
	男子3年	9	-	-	-	8	-	-	-	17
	計	23	-	-	-	20	-	-	-	43
	女子1年	2	5	-	1	6	-	-	-	14
	女子2年	2	1	2	7	2	-	-	-	14
	女子3年	-	4	3	6	6	-	-	-	19
	計	4	10	5	14	14	-	-	-	47
安岐中学校	男子1年	13	-	-	8	6	-	2	3	32
	男子2年	8	-	-	8	2	-	1	9	28
	男子3年	4	-	-	7	4	-	3	8	26
	計	25	-	-	23	12	-	6	20	86
	女子1年	-	4	-	5	2	-	-	7	18
	女子2年	-	3	-	5	2	-	-	9	19
	女子3年	-	3	-	4	6	-	-	1	14
	計	-	10	-	14	10	-	-	17	51
合計		97	48	34	111	116	21	21	37	485

資料：国東市教育委員会

(3) スポーツ競技団体の状況

大分県民体育大会（以下「大分県体」という）における競技種目のうち、国東市体育協会に加盟しているスポーツ競技団体の参加状況をみると、継続

して参加者が確保されている競技もあれば、年々減少傾向にあったり、十分な参加者が確保できないために辞退したりする競技団体もあります。

一方で、大会の周知によって新たな競技団体が発足し、スポーツ人口の拡大に寄与している例もあるため、今後は、競技人口の増加につながる取り組みが必要となります。

【大分県体への参加状況（国東市体育協会加盟競技団体）】

単位：人

県民体育大会種目	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
水泳	15	15	16	15	9
陸上	32	31	36	37	37
テニス	18	19	19	19	19
体操	-	-	-	-	-
バスケットボール	15	15	15	15	15
ウエイトリフティング	3	2	3	2	2
卓球	26	26	26	26	26
軟式野球	20	20	20	20	20
相撲	14	14	-	-	-
バドミントン	17	17	17	17	17
弓道	14	18	18	16	15
ラグビーフットボール	26	26	26	26	26
自転車競技	16	16	14	12	14
ソフトテニス	24	24	24	25	25
柔道	9	8	9	13	13
剣道	10	10	10	10	10
山岳	11	8	11	11	11
サッカー	19	19	19	19	21
ソフトボール	60	60	59	58	60
バレーボール	31	31	36	36	36
ハンドボール	-	-	-	-	-
ライフル射撃	3	5	3	3	2
クレー射撃	-	-	-	-	4
銃剣道	-	-	-	-	-
ボウリング	12	12	12	12	12
セーリング	10	11	8	8	8
空手道	-	-	-	2	-
アーチェリー	1	2	-	1	1
スキー	-	-	1	1	1
ゲートボール	17	18	18	18	18
ゴルフ	14	12	12	12	12
レスリング	-	-	-	-	-
カヌー	14	14	14	14	14
なぎなた	-	-	-	-	-
フェンシング	-	-	-	-	-
グラウンド・ゴルフ	9	9	8	9	9
綱引	12	22	23	12	-
ボート	-	-	-	-	-
ホッケー	-	-	-	-	-
アマチュアボクシング	-	-	-	-	-
スケート	-	-	-	-	-
アイスホッケー	-	-	-	-	-
馬術	-	-	-	-	-
合計	472	484	477	469	457

資料：国東市体育協会

(4) スポーツ少年団の活動状況

本市では、各地域においてスポーツ少年団が活動しており、団体間や学校間で大会を実施するなど、連携を図っています。

団員数は少子化に伴って減少傾向にありますが、教室数と指導者数はおおむね横ばいとなっています。少子化の進む中では、スポーツ人口の拡大に向けて、子どもたちのスポーツに対する意欲を維持できるような取り組みが必要となってきます。

【市内スポーツ少年団の教室・団員・指導者数（平成26年度～平成30年度）】

単位：教室・人

種目別合計	平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成29年度			平成30年度		
	団体数	団員数	指導者数	団体数	団員数	指導者数	団体数	団員数	指導者数	団体数	団員数	指導者数	団体数	団員数	指導者数
野球	8	146	33	9	155	32	9	144	35	8	145	31	8	131	34
サッカー	5	111	14	5	78	10	4	80	10	4	78	10	4	83	12
バレーボール	8	82	19	8	78	27	6	60	24	6	65	26	6	54	23
ソフトテニス	2	26	2	2	37	5	3	41	5	4	59	7	4	56	5
卓球	1	24	5	1	22	5	1	22	6	1	24	6	1	23	6
剣道	5	43	3	5	51	4	3	34	6	3	37	5	3	34	5
柔道	2	31	9	2	28	9	2	22	10	2	19	8	2	21	8
空手	3	25	5	3	18	5	2	15	5	2	14	5	2	8	5
少林寺拳法	1	8	0	1	7	2	1	11	2	1	7	2	1	6	2
テコンドー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0
合計	35	496	90	36	474	99	31	429	103	31	448	100	32	420	100

資料：国東市体育協会

【国東市における児童・生徒数の推移（平成26年度～平成30年度）】

単位：人

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
小学校	1,225	1,207	1,167	1,114	1,112
中学校	726	668	630	604	596
合計	1,951	1,875	1,797	1,718	1,708

資料：国東市教育委員会（各年度5月1日現在）

(5) スポーツ観光事業の活動状況

本市では、自然豊かな観光資源を活かしたスポーツイベントや大会が開催されています。こうした事業を継続することによって、交流人口の増加や地域資源の発見・活用が見込まれます。

【国東市内で開催されている地域資源を活用したイベントの参加者推移（平成26年度～平成30年度）】

種目	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	備考
ツール・ド・くにさき	2,496	2,326	1,912	2,495	2,515	ツール・ド・くにさき実行委員会
国東半島峯道ロングトレイル	—	1,059	1,669	2,162	—	国東市観光協会 (例年6月に前年度分を集計)
ウォーキングイベント	100	288	238	287	469	各地区ウォーキングイベント主催者
とみくじマラソン	3,439	3,219	3,122	3,007	3,055	とみくじマラソン実行委員会
九州瀬戸内高校駅伝	2,899	2,960	2,840	2,081	台風のため中止	九州瀬戸内高等学校駅伝競走大会実行委員会 (平成29年度からは女子のみ開催)
合計	8,934	9,852	9,781	10,032	6,039	

資料：各スポーツイベント・大会主催団体



九州瀬戸内高校駅伝



とみくじマラソン

3 体育施設利用状況

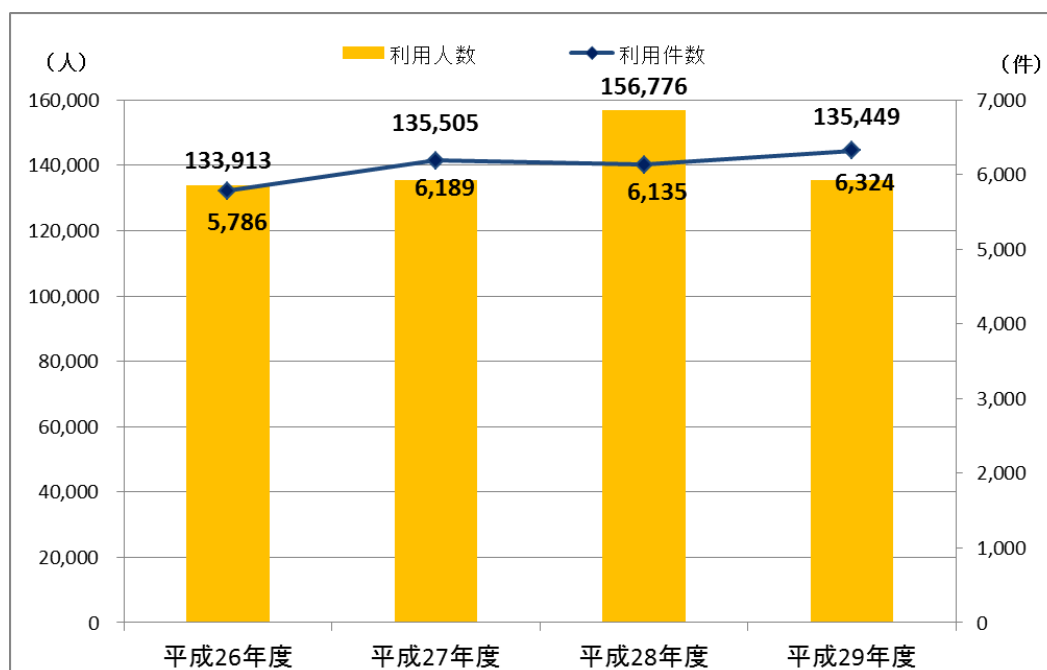
本市における主な体育施設の利用件数と利用人数は微増傾向にありますが、老朽した施設や備品が多くあるため、利用者が安心・安全に利用できる環境整備が求められています。

【国東市の主な体育施設の利用状況（平成26年度～平成29年度）】

単位：件・人

体育施設	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	利用件数	利用人数	利用件数	利用人数	利用件数	利用人数	利用件数	利用人数
国東野球場	221	10,684	270	11,636	186	21,366	195	8,531
国東陸上競技場	409	20,377	420	23,567	379	28,832	429	17,560
国東体育館	589	14,259	578	16,308	600	19,889	585	15,544
国東柔剣道場	647	10,614	658	11,901	780	13,430	862	12,219
国東テニスコート	154	2,192	186	2,547	207	2,662	209	2,561
武蔵体育館	537	8,973	505	9,329	355	2,293	436	9,867
武蔵多目的グラウンド	486	13,255	446	10,815	461	11,627	464	11,241
武蔵野球場	550	8,735	410	5,696	441	7,659	138	2,770
体力づくり広場	5	58	44	121	36	111	12	52
武蔵弓道場	0	160	1	3	9	29	2	2
向陽台多目的広場	23	832	21	880	95	2,535	114	2,842
安岐体育館	710	14,052	765	14,423	887	16,264	775	13,604
安岐テニスコート	920	12,523	1,413	12,417	1,367	15,175	1,378	22,101
安岐野球場	142	5,825	126	5,391	154	5,722	147	6,150
安岐多目的グラウンド	393	11,374	346	10,471	362	8,618	389	10,405
安岐コミュニティ広場	0	0	0	0	5	564	0	0
合計	5,786	133,913	6,189	135,505	6,324	156,776	6,135	135,449

（再掲）



資料：国東市教育委員会

4 第1次計画の評価とまとめ

生涯にわたってスポーツを楽しむためには、世代ごとの課題を明確化し、それらに応じた取り組みについて整理する必要があります。また、誰もが気軽にスポーツができる環境づくりに向けて、これまでの国東市におけるスポーツ施策の展開を踏まえたうえで、スポーツを支える人材、施設の整備・充実、情報発信など、本市のスポーツを取り巻く環境の整備に向けた取り組みを推進し、スポーツのまちづくりの実現を検討します。

(1) これまでのスポーツ施策の評価

本市では、平成26年3月に第1次計画を策定しました。第1次計画では、「多様な参加ができる『する』スポーツの充実」「魅力ある『みる』スポーツの充実」「感動を分かち合う『ささえる』スポーツの充実」「気軽に利用できる『場所』の充実」「スポーツを『する』『みる』『ささえる』きっかけづくりのための『情報』の充実」を柱として、目標達成に向けた施策展開を図ってきました。

①「多様な参加ができる『する』スポーツの充実」

本市では、年齢の高低や障がいの有無にかかわらず、多くの市民が日常生活においてスポーツに親しんでいます。それぞれの志向に応じて、ジョギングやウォーキングなどの軽い運動から、トッププレイヤーを目標にした競技スポーツまで、様々な形で身体を動かしています。

本市における成人の運動習慣者¹の割合は、平成25年度は23.2%で、全国平均値である30.5%を下回っていたため、第1次計画において平成30年度までに実施率50%を目指すこととし、健康増進施策の推進や軽スポーツの普及、スポーツに親しむ機会の積極的な提供などに努めました。これらの施策によって、平成29年度には30.0%まで上昇しましたが、全国平均値も上昇しているため、依然として目標には届いていません。

そうした中にありながらも、市内では、各地域においてウォーキングやトレイルイベントが開催されたり、幅広い層に対して軽スポーツへの参加を促したりと、スポーツに慣れ親しんでいただくための取り組みが実施されており、日常的なスポーツ活動に結びつきつつあります。

また、大分県体に関する実績をみても、参加者数は減少傾向にあり、総合順位も下落しています。一方で、これまでに参加していなかった競技に出場する人も現れ始めています。大分県体の順位は出場者数・出場競技数に大き

¹ 1回につき30分以上のスポーツを週に2回以上、1年以上継続して実施している者をいう。なお、第1次計画策定時は、運動を週に1回以上、1年間継続している者のこと。

く左右されるため、本市のスポーツを質・量の両面から向上させるためには、競技人口の拡大に向けた取り組みを継続する必要があります。

評価項目	基準値 (平成 26 年度)	実績値 (平成 30 年度計画策定時点)
運動習慣者の割合	23.2% ²	30.0% ³
県体出場人数	472 人 (43 競技中 36 競技出場)	457 人 (43 競技中 36 競技出場)
県体総合成績	総合 11 位／C 部 2 位	総合 14 位／C 部 4 位

②「魅力ある『みる』スポーツの充実」

本市では、トップアスリートの参加する大会や市内のチーム・選手などが出場する大会を観戦するなど、スポーツを「する」人だけでなくスポーツを「みる」人へも取り組みを進めてきました。また、競技レベルの高い選手やチームの大会や合宿を誘致し、その取り組み状況について市報やケーブルテレビ、ホームページなどを通じて幅広く周知しています。

しかしながら、観客参加型の催しなどのスポーツ観戦をより魅力的なものとするための具体的な取り組みは実施できていませんが、地域資源を活用したウォーキングやトレッキングなどは盛んで、市内外から多く方が参加しています。ウォーキング・トレッキングイベントの参加者数は、平成 26 年度には 2,596 人でしたが、循環型の営農環境や六郷満山文化など、地域固有の文化や環境が資源として見直されることによって始まったイベントによって、平成 29 年度には 4,944 人まで増加しました。

「みる」スポーツに関する取り組みは、今後、わが国での開催が予定されている世界的スポーツイベントに伴って、さらに重要性を増していくと見込まれます。市や各種スポーツ団体などが関わるイベントについて、これまでよりもいっそう多角的な視野を持つことが要求されます。

² 「平成 25 年度国東市民のスポーツ実態に関するアンケート調査」において、週 1～2 日以上運動を 1 年間継続した人の割合。

³ 「平成 29 年度国東市食育・健康づくりに関するアンケート調査」において、仕事以外に 1 回 30 分以上で週 2 日以上運動を 1 年以上継続している人の割合。

評価項目	基準値 (平成 26 年度)	実績値 (平成 30 年度計画策定時点)
地域資源ふれあい イベントの参加者数 ⁴	2, 596 人	4, 944 人

③「感動を分かち合う『ささえる』スポーツの充実」

スポーツ施策の推進にあたって、多様化するニーズや多元化する事業分野との関わりに対応するため、スポーツ推進委員や総合型地域スポーツクラブ、国東市体育協会との連携しながら、スポーツを「する」人や「みる」人を「ささえる」取り組みを進めました。

市民のスポーツ活動をささえる指導者やボランティアへは、著名な指導者を招いた講演や、スポーツ医学に基づいた講演を開催するなど、見識を高める機会を提供しました。また、九州大会や全国大会などに出場する市内の選手・チームに対して支援を行なうことで、競技に取り組むモチベーションと競技力の向上を図りました。

なお、第 1 次計画で掲げた「スポーツ団体協働プロジェクト」に準じた具体的な取り組みは実施できませんでしたが、スポーツを核としながら各分野と協働した取り組みは、スポーツに親しむ機会を提供したり、スポーツ機運を醸成したりするために、本市のスポーツ環境の向上に欠かせないことから、スポーツに親しむ人がいる限り継続しなくてはなりません。

④「気軽に利用できる『場所』の充実」

人口減少の時代にありながらも、スポーツ合宿や大会の誘致を行なったり、軽スポーツや健康体操などの幅広い運動の機会が増加したりしたことから、第 1 次計画以降の市内のスポーツ施設利用者と利用件数は微増傾向にあります。また、市内の小・中学校と連携して、学校体育施設を活用したスポーツ活動も盛んです。一方で、少なからぬ体育施設が老朽化しており、利用者からは環境改善を求める声が上がっています。

こうした現況を踏まえたうえで、これからの市内のスポーツ環境づくりにあたっては、「国東市総合計画」や「国東市公共施設総合管理計画」などに基づいて、本市の財政状況や利用者の需要に鑑みながら、長期的な視野を持った検討が必要です。

⁴ 本市で開催されているスポーツイベントのうち、ツール・ド・くにさき、国東半島峯道ロングトレイル、各地区ウォーキングイベントの参加者数。表中の実績値（平成 30 年度計画策定時点の数値）は、平成 29 年度における実績。

評価項目	基準値 (平成 26 年度)	実績値 (平成 30 年度計画策定時点)
市内のスポーツ施設 利用者・件数	133,913 人／5,786 件	135,449 人／6,135 件

⑤「スポーツを『する』『みる』『ささえる』きっかけづくりのための『情報』の充実」

本市で開催されるスポーツイベントや、市民が参加・出場する大規模大会などについて、市報やケーブルテレビ、インターネットを通じて幅広く情報提供を行ないました。また、上述した講演会や研修会にあたっては、スポーツボランティアや指導者だけでなく、市内外を問わず幅広い層に周知を図ったことで、様々な人にとって研鑽を深める機会となりました。

今後は、情報発信手段の多様化に対応しながら、スポーツに更に親しんでもらえるような情報提供のあり方を検討する必要があります。

(2) 今後のスポーツ施策の課題

本市におけるこれまでのスポーツ施策の評価及び現状を踏まえ、以下のとおり課題を整理するとともに、今後の目標や具体的な施策に活用します。

課題① 健康づくり

本市における成人の運動習慣者の割合は 30.0%で、全国平均の 32.3%⁵をわずかながら下回っています。また、市内の成人の 61.1%が、自分に必要な運動量を知らないと答えています。このように、運動への意識が低い人が多く、生活習慣病の要因となる肥満者の割合が高いという特徴が本市にはあります。

スポーツに永く親しんでもらうためにも、健康づくりの取り組みと連携しながら、運動不足を解消するために継続できるスポーツの普及が求められます。

課題② ライフステージに応じたスポーツ機会

市民のスポーツ実施状況をみると、高校生までは授業や部活動などで日常的にスポーツに親しむ機会が多くありますが、学校を卒業してからは、「スポ

⁵ 「平成 29 年国民健康・栄養調査」において、1 回 30 分以上で週 2 日以上運動を 1 年以上継続している人の割合。

ーツをする人」と「しない人」に二分化しています。スポーツを行なう理由や行なわない・行なえない理由は、28.1%が「時間がない」とし、19.1%が「長続きしない」としています。

一方、ウォーキングやトレッキングなどの親しみやすいスポーツについては、イベント数・参加者ともに増加傾向にあります。こうした老若男女に幅広く受け入れられているスポーツについては、支援を継続し、効果的な推進を図る必要があります。

課題③ スポーツ競技力

スポーツ競技力向上のためには、各々の競技者の資質を最大限に引き出すことが重要です。また、現に優れている競技者がいたとしても、その知識や技術が後進に引き継がれなくてはなりません。そのためには、高度な専門的知識と高い指導力を持つ指導者を育成する必要があります。

また、ジュニア選手等の若年層に向けては、トッププレイヤーの競技に触れる機会を増やすことも大切であるため、大会や合宿の誘致・開催に向けた取り組みが求められます。

課題④ スポーツ環境

本市の体育施設には老朽施設が多く、利用頻度に大きな差があります。また、施設の多くは無人の施設であるため、施設の維持管理のために利用を制限することもあります。現状の体育施設を効果的に活用し、将来にわたって安定したスポーツ環境を提供していくためには、市の財政や人口動態などの刻々と変化する環境を勘案し、施設の管理状況や利用状況、利用者のニーズや地域の意向を確認しながら、それぞれの体育施設の必要性や管理方針について継続的に協議することが必要です。

また、スポーツ人口を拡大するために、市民のスポーツへの関心を高める必要があります。ホームページや市報などの既存の情報発信に加えて、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）などを活用した取り組みを検討する必要があります。

第3章 基本的な考え方と目標

1 基本理念

スポーツを核とした 明るく元気な“くにさき”の創造

本市では、年齢や性別、障がいの有無に関わらず、すべての市民にとってスポーツが「欠くことのできない大切なもの」となるよう、「多様な参加ができる『する』スポーツ」「魅力ある『みる』スポーツ」「感動を分かち合う『ささえる』スポーツ」「気軽に利用できる『場所』」「スポーツを『する』『みる』『ささえる』きっかけづくりのための『情報』」の充実を図ってきました。今後も、気軽にスポーツへの関心を持つことができる環境づくりや、健康増進や生きがいづくりを目的とするスポーツを通じた交流を促進することで、明るく元気なまちを築いていきます。

国の「第2期スポーツ基本計画」では、①スポーツで「人生」が変わる、②スポーツで「社会」を変える、③スポーツで「世界」とつながる、④スポーツで「未来」を創るという観点から、スポーツ参画人口を拡大し、他施策分野と連携・協力することで「一億総スポーツ社会」の実現に取り組むこととしています。

本計画においても、子どもから高齢者までライフステージに応じたスポーツのあり方を考えるとともに、子どもの運動能力の底上げや高齢者の生きがいづくり、障がい者スポーツの推進を図ります。さらに、本市の豊かな自然環境を活かしたスポーツ観光による新たな魅力を発信しながら、ラグビーワールドカップ2019日本大会や2020年東京オリンピック・パラリンピックなどの機会を活かして、様々な人や地域との交流を促進したり、合宿・大会の受け入れを推進したりすることで、国際社会に向けた多面的なスポーツ施策の展開を図り、「スポーツを核とした 明るく元気な“くにさき”」を創造します。

2 計画の目標

本計画では、「国東市総合計画」の基本計画を踏まえ、「スポーツを核とした 明るく元気な “くにさき”」をコンセプトとして、市民が目的やライフステージに応じてスポーツに取り組むことができる環境を目指すとともに、スポーツを通じて国東市のさらなる活性化を図ります。

(1) ライフステージに応じたスポーツ施策の推進

すべての市民が、生涯にわたり健康でいられるよう、日常的にスポーツに親しむ機会の充実を図るとともに、スポーツを行なっていない人への働きかけを行ない、「する」「みる」「ささえる」スポーツの楽しみ方や関わり方などをわかりやすく提案します。遊び活動にスポーツの要素を取り入れたり、リハビリテーションやサロン活動などにスポーツを活用したりと、幅広い層に向けてスポーツに親しむ機会を様々な形で提供することで、スポーツへの関心を高めるとともに、スポーツ参画人口の拡充を図ります。

(2) スポーツ競技力の向上

ラグビーワールドカップ 2019 日本大会や 2020 年東京オリンピック・パラリンピックの合宿誘致などに積極的に関わることで、スポーツを通じた国際交流やトップレベルの競技に触れる機会を創出します。また、効果的なスポーツ指導を行なえるよう、各人のレベルや目的に合わせた適切な指導方法に関する研修会や講習会を開催し、競技者と指導者の双方の育成を図ります。

(3) スポーツ環境の整備・充実

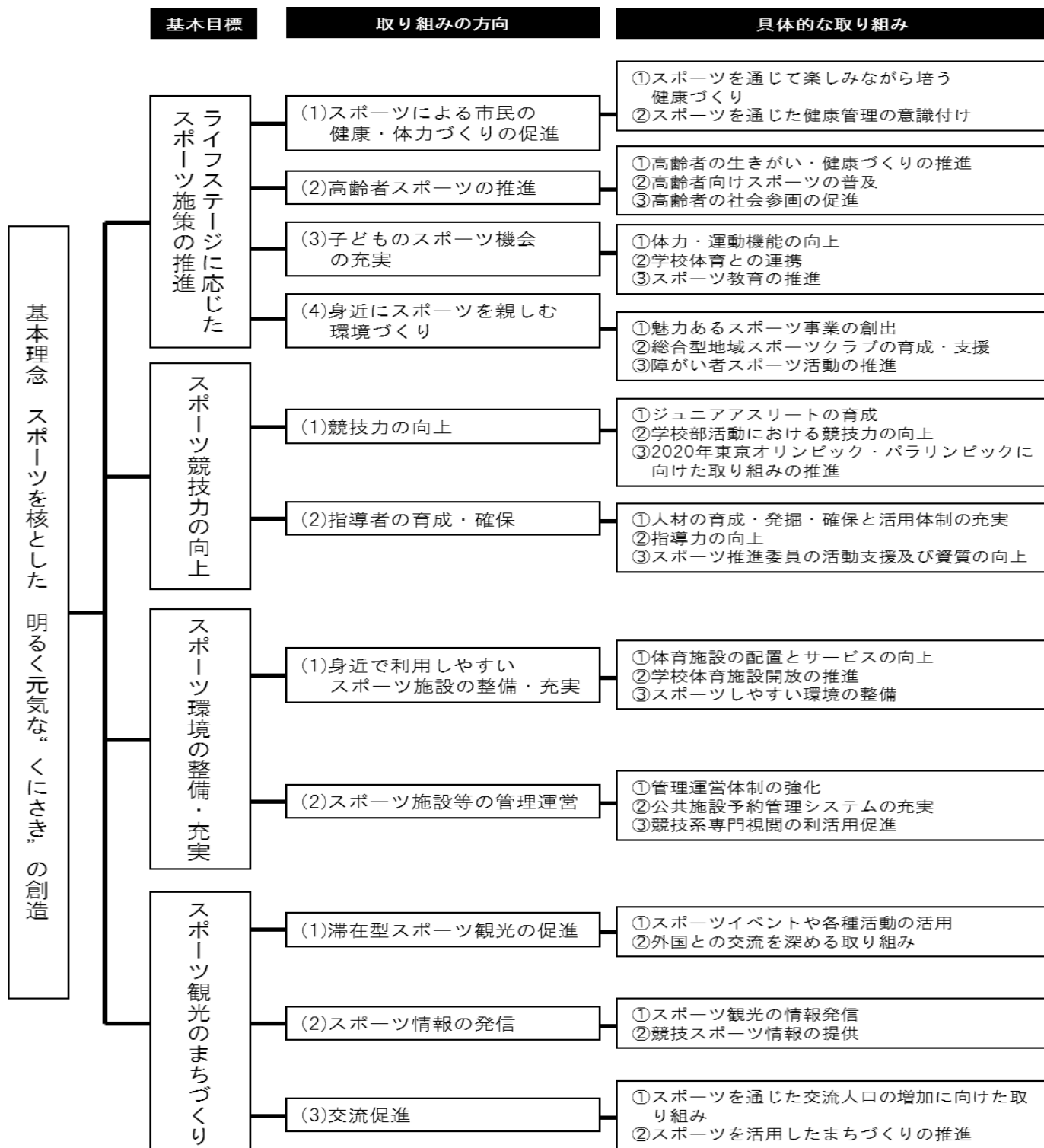
安全で利用しやすい体育施設の充実を目指し、施設や設備の点検・整備を行なうとともに、ニーズに応じた施設の改修・検討を行なうなど、市民がスポーツに親しみやすい環境を整備します。また、市内体育施設の全体状況を俯瞰し、効果的な利活用が図れるよう、利用者などの意見を汲み取りながら検討します。

(4) スポーツ観光のまちづくり

スポーツは人と人、地域と地域との交流を促進するとともに、特に大会やイベントなどは地域資源の活用につながることから、活力あるまちづくりには不可欠な要素です。本市特有の自然環境や文化などを活かしたアクティビティの場や機会を提供することで、スポーツと観光の連携を更に深めたまちづくりを推進します。

3 施策体系

本計画では、第1次計画で定めた5つの基本施策及び系列下にある具体的な施策について、本市の現況や課題に照らし合わせながら修正を加えることで、新たに4つの柱を基本目標に掲げ、「スポーツを核とした 明るく元気な “くにさき”」の実現を目指します。



第4章 目標の達成に向けて

施策の展開

基本目標1 ライフステージに応じたスポーツ施策の推進

■ 成果指標 ■

指標項目	単位	現状値(H29)	最終目標値(H40)
成人の運動習慣者割合	%	30.0	50.0
【指標説明】 市民アンケートの調査結果による（国東市健康づくり計画の目標値は40.0%（平成35年度））			

（１）スポーツによる市民の健康・体力づくりの促進

具体的な取り組み ①スポーツを通じて楽しみながら培う健康づくり

○すべての市民が心身ともに健康で豊かな日常生活を送るために、日ごろからスポーツに親しみながら、健康づくりへの関心を高められるよう、ウォーキングやトレイル、軽スポーツなどの比較的気軽に楽しめるスポーツを推進します。

具体的な取り組み ②スポーツを通じた健康管理の意識付け

○スポーツによる事故や怪我を未然に防止するために、自身の健康状態や運動能力を把握できるよう、健康づくり事業と連携した取り組みを進めます。
○自身の体力年齢を知る良い機会として、体力テストを全市的な取り組みとして実施します。
○個人の体力や生活リズムに合わせて気軽に取り組めるスポーツの普及・啓発を行います。

（２）高齢者スポーツの推進

具体的な取り組み	①高齢者の生きがい・健康づくりの促進
○生涯にわたって元気に動ける体づくりを目指して、健康の保持・増進、介護予防を目的とした体操などを行ないます。	
具体的な取り組み	②高齢者向けスポーツの普及
○高齢者のスポーツ参画は、健康の保持・増進だけでなく、孤立を防いだり、生きがいづくりに寄与したりすることから、高齢者を対象とした施策とスポーツ施策との連携を図り、健康寿命の延伸を目指します。	
具体的な取り組み	③高齢者の社会参画の促進
○スポーツ高齢者の健康増進や生きがいづくりに大きな役割を果たすことから、ボランティア活動への参加や大会の応援など、スポーツに様々な形で関わる社会参画の機会を提供します。 ○たくさんの仲間と競い合い、助け合って続けられるような魅力あるスポーツの提案を行ないます。	



介護予防教室の様子

(3) 子どものスポーツ機会の充実

具体的な取り組み	①体力・運動機能の向上
○子どもの体力の低下を防ぐため、体力テストなどの調査を実施し、児童生徒の体力の実態を客観的に把握するとともに、体力向上に資する取り組みを継続します。また、スポーツに苦手意識のある子どもでも気軽に参加できるイベントや大会、教室の開催を検討します。 ○国東市スポーツ少年団と連携しながら、スポーツに親しむ環境の充実を図り、楽しさを感じさせる子どものスポーツ環境構築を推進します。	
具体的な取り組み	②学校体育との連携
○学校の体育活動を通じて、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する資質や能力を育むとともに、放課後や地域での子どものスポーツ機会の充実を図ります。 ○体育授業などでの運動の日常化を促進するとともに、学校行事などにおいても子どもの体力・運動機能の向上につながる取り組みを推進し、学校・地域・児童生徒・保護者が協力してスポーツを実施できるよう支援を図ります。	
具体的な取り組み	③スポーツ教育の推進
○学校教育の一環である運動部活動が、子どもにとってスポーツを通じて責任感や連帯感を養える教育的活動であることを踏まえて、スポーツを通じた青少年の健全育成を推進します。また、スポーツ少年団などが行なっている活動との連携に努めます。 ○医療機関やスポーツ団体等と連携し、過重な運動による事故や怪我を防止するための研修や学習機会の提供に努めます。	

(4) 身近にスポーツを親しむ環境づくり

具体的な取り組み	①魅力あるスポーツ事業の創出
○成人の運動習慣者増加を目指す本市においては、市民のスポーツへの関心を高める取り組みが重要であるため、スポーツの楽しさを実感できたり、誰にとっても気軽に参加しやすくしたりと、生涯にわたって継続したスポーツ活動が行なえるような魅力ある事業内容を検討します。 ○「みる」スポーツの魅力を伝えられるスポーツイベントや競技会等の開催を目指します。	
具体的な取り組み	②総合型地域スポーツクラブの育成・支援
○種目を超えてスポーツ「する」「ささえる」仕組みを担っている総合型地域スポーツクラブが、地域スポーツの担い手として継続して役割を果たせるよう、活動内容の充実を図るとともに、総合型地域スポーツクラブの自律的な運営につながるような支援を行ないます。 ○地域コミュニティの活性化によるスポーツを通じたまちづくりが展開されるよう、総合型地域スポーツクラブの諸活動の広報・啓発に努め、活力あるクラブの育成・支援を行ないます。	
具体的な取り組み	③障がい者スポーツ活動の推進
○共生社会の実現にむけて、障がいの有無によって分け隔てられることなく楽しめるような軽スポーツの普及・推進に努めます。 ○障がい者スポーツの指導者を充実させるため、スポーツ推進委員会を中心として指導者の育成を図ります。 ○障がいの種類や程度、ライフステージに応じて、身近な地域において多人数で日常的にスポーツを楽しめる環境整備を検討します。	

基本目標2	スポーツ競技力の向上
--------------	-------------------

■ 成果指標 ■

指標項目	単位	現状値(H29)	最終目標値(H40)
大分県民体育大会成績	順位	総合14位／C部4位	総合10位／C部優勝
【指標説明】大分県民体育大会結果による			

(1) 競技力の向上

具体的な取り組み	①ジュニアアスリートの育成
○スポーツ分野での将来の夢や希望を持つ子どもにとって、それを達成できるような競技環境を整えたり、高いレベルの競技を観戦できる機会を設けたりするなど、スポーツを好きな子どもがアスリートを志せるよう、意欲の向上に取り組めます。 ○スポーツ教室等によって競技人口の拡大を図るとともに、学校体育関係等と連携を深め、将来性を有するジュニアアスリートの発掘・育成を継続して支援します。	
具体的な取り組み	②学校部活動における競技力の向上
○運動部活動において、部活動指導員制度などを活用することで、専門知識と技術を持った指導者を顧問として外部から迎え入れ、部員の競技力向上を目指します。	
具体的な取り組み	③2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた取り組みの推進
○2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、ウエイトリフティングをはじめとする競技合宿の誘致を推進します。また、競技レベルの高い選手たちとの交流を図ることで、地域スポーツ団体等の競技力向上に貢献します。	

(2) 指導者の育成・確保

具体的な取り組み	①人材の育成・発掘・確保と活用体制の充実
○スポーツ人口の拡大及び競技力向上に向けて、指導者の確保と指導体制の確立に向けた取り組みを推進します。また、専門分野だけでなく、栄養指導やスポーツ傷害の予防、メンタルトレーニング等の他分野にわたる指導力を向上させるよう、スポーツ少年団等の指導者と連携を深めます。 ○市民のニーズに応じた指導者の育成や、運動習慣者の増加を図るため、国東市体育協会等と連携して、各種研修会や講演会を開催します。	
具体的な取り組み	②指導力の向上
○他分野にわたる指導力を養うことでスポーツ指導者に求められる能力の向上を図るため、最新のスポーツ医学・科学情報や客観的なデータの活用方法、コーチングスキルなどの習得を目的とした指導者講習会の実施を検討します。 ○基礎体力や基礎的な運動能力の向上等、種目を超えた共通の課題や効果的な指導方法について、必要な情報を指導者間で共有できるように努めます。	
具体的な取り組み	③スポーツ推進委員の活動支援及び資質の向上
○地域のスポーツを「ささえる」役割を担うスポーツ推進委員の活動を周知するとともに、先進的な取り組みを率先して取り入れることができるよう、スポーツ推進委員の研修会等への積極的な参加を促し、資質の向上を図ります。 ○スポーツ推進委員が中心となって、市民のニーズに合ったスポーツ体験の場を定期的に提供したり、公民館及び小中学校等と連携してスポーツ活動の場を提供したりするなど、身近な場でのスポーツ活動の普及・定着を図ります。	

基本目標3	スポーツ環境の整備・充実
--------------	---------------------

■ 成果指標 ■

指標項目	単位	現状値(H29)	最終目標値(H40)
市内のスポーツ施設利用者数	人	133,913人	140,000人
市内のスポーツ施設利用件数	件	5,786件	7,500件
【指標説明】国東市公共施設予約システムの集計による			

(1) 身近で利用しやすいスポーツ施設の整備・充実

具体的な取り組み	①体育施設の配置とサービスの向上
-----------------	-------------------------

○市民のスポーツ活動の拠点である体育施設について、利用実態を把握し、利用率の向上に努めます。併せて、老朽化が進んでいたり、利用が少なかったりする施設については、利用廃止も含めた検討を行なうなど、市内全体のバランスを考慮した体育施設の配置と整備充実を図ります。

具体的な取り組み	②学校体育施設開放の推進
-----------------	---------------------

○市民にとって身近なスポーツ活動の場である学校体育施設について、利便性の向上を図りつつ、引き続き施設の開放を進めます。併せて、老朽化の進む施設については、市民が安全・安心して利用できるよう計画的な整備に努めます。

具体的な取り組み	③スポーツしやすい環境の整備
-----------------	-----------------------

○くにみ海浜公園などの多くのスポーツを楽しめる拠点的な場所について、今まで以上にスポーツをしやすい環境整備に努めます。また、既存の体育施設についても、利用促進に向けて利便性と機能性の向上を検討します。

(2) スポーツ施設等の管理運営

具体的な取り組み	①管理運営体制の強化
○市民が気軽にスポーツ活動ができるよう、施設の運営体制の強化を図るとともに、多様化する市民ニーズに対応した管理運営が行なえるよう、施設利用サービスの向上に努めます。 ○体育施設の効果的な利用を促進するため、管理運営方法についてスポーツ関係団体等への指定管理や委託などを検討します。	

具体的な取り組み	②公共施設予約管理システムの充実
○公共施設予約システムをはじめとする施設の付帯設備及び利用手続き等について、利用者の意見を汲み取りながら利便向上に努めます。 ○滞在型スポーツの推進のため、競技合宿誘致に向けた取り組みのノウハウを生かしながら、体育施設の有効利用につながるサービスの向上に努めます。	

具体的な取り組み	③競技系専門施設の利活用促進
○国東ウエイトリフティング場や弓道場、柔剣道場などの競技系専門施設について、施設機能の向上を図れる整備を含めた利活用の促進と競技力の向上を検討します。 ○2020 年東京オリンピック・パラリンピックにかかるキャンプ誘致や、開催以降でも継続的に合宿・大会を誘致できるよう、ウエイトリフティング競技の実施環境を整えます。	



ウエイトリフティング競技環境の整備

基本目標4**スポーツ観光のまちづくり**

■ 成果指標 ■

指標項目	単位	現状値(H29)	最終目標値(H40)
観光入込客数	人	863,185	900,000
【指標説明】国東市総合計画を基に推計			

(1) 滞在型スポーツ観光の促進**具体的な取り組み****①スポーツイベントや各種活動の活用**

○本市の自然豊かな観光資源を活かしたスポーツイベント（ツール・ド・くにさき、とみくじマラソン、九州瀬戸内高校駅伝など）の開催を推進したり、世界農業遺産や日本遺産認定地としての魅力を活かした各種活動の場や機会を提供したりすることで、本市の魅力を発信し、スポーツ実施者の増加及び本市へのリピート来訪者の確保を図ります。

具体的な取り組み**②外国との交流を深める取り組み**

○ラグビーワールドカップ 2019 日本大会や 2020 年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、外国人アスリートや外国チーム指導者、競技観戦を目的に訪れた方などとの交流を推進し、国際スポーツ社会における本市の地位の確立と多文化交流の促進を図ります。



地域資源とスポーツの連携（ロングトレイル）

(2) スポーツ情報の発信

具体的な取り組み	①スポーツ観光の情報発信
○豊の国千年ロマン観光圏などの広域連携による効果的なプロモーションを活用して、スポーツイベントをはじめとする本市のスポーツ施策の周知を図ります。 ○体育施設の予約状況を公表し、観光関係者との連携を図ることで、スポーツ合宿等の滞在型スポーツの普及を図ります。	

具体的な取り組み	競技スポーツ情報の提供
○広報誌やホームページなどを通じ、国際大会や全国大会等に出場する選手やチームなどの情報を発信することにより、市民の競技スポーツへの関心を高めます。 ○ラグビーワールドカップ 2019 日本大会や 2020 年東京オリンピック・パラリンピックの開催を好機と捉え、商工・観光関係者との連携を図り、外国人の誘客に資するスポーツ観光情報の発信強化に努めます。	



仁王輪道 HP（サイクルツーリズムの推進）

(3) 交流促進

具体的な取り組み	①スポーツを通じた交流人口の増加に向けた取り組み
	○各種スポーツイベントの積極的な実施により、スポーツを通じた地域間交流と市民のスポーツ参加を促します。また、「する」「みる」「ささえる」など、様々な立場や役割で市民が関わるスポーツイベント開催・誘致を促進し、地域コミュニティ活性化を図ります。 ○交流人口の拡大及び地域経済効果の向上を目指して、地域資源を活用したり、競技スポーツ団体の活動を支援したりすることで、観光振興も兼ねたスポーツ大会やスポーツ合宿等の受け入れを推進します。 ○ラグビーワールドカップ 2019 日本大会や 2020 年東京オリンピック・パラリンピックを好機と捉え、国内外へ向けた情報発信やスポーツ施策と観光施策との連携によるスポーツツーリズムや、関係団体と協働した広域連携などを促進し、交流人口の拡大を図ります。
具体的な取り組み	②スポーツを活用したまちづくりの推進
	○地域活性化や経済効果の向上、健康寿命の促進など、まちづくりを進めるための様々な効果が期待されているスポーツの側面を生かすため、市民の誰もが年齢や体力、目的に応じて「いつでも」「どこでも」「誰でも」「いつまでも」スポーツに関わることができる機会を提供します。 ○世界農業遺産や日本遺産の認定地であることや、豊かな自然環境などの地域資源を活かしたスポーツ活動を支援するとともに、関係機関と連携を図りながら、スポーツツーリズムに関する取り組みを推進します。 ○スポーツを「世界共通の人類の文化」と捉え、スポーツを活用した総合的なまちづくりを推進することで、市民の健康維持・増進や体力向上のみならず、明るく豊かで活力に満ちた社会の形成を目指し、様々な分野の事業と連携を図ります。

第5章 計画の推進に向けて

計画の進捗管理

(1) 市役所庁内における計画推進体制の整備

本計画の推進にあたっては、社会教育課を事務局とします。また、スポーツを通した本市の活性化を全庁的に進めるため、関係各課と情報共有・連携を図りながら取り組みを進めます。本計画で掲げたスポーツ推進に関する取り組みについては、細かに進捗状況を把握するとともに、実効性の高いものとするため、毎年、担当課において点検・評価を行ないます。加えて、本計画が大局的な見地に立ったものとなるよう、策定後4年間を目途として改正を行ないます。

【計画の進捗管理イメージ】

平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	平成 35 年度	平成 36 年度	平成 37 年度	平成 38 年度	平成 39 年度	平成 40 年度
第 2 次国東市スポーツ推進計画				中間見直し		第 2 次国東市スポーツ推進計画 (改正後)			
取り組みの 検証・修正				計画の検証・ 効果測定・ 修正		取り組みの 検証・修正			
	取り組みの 検証・修正						取り組みの 検証・修正		
		取り組みの 検証・修正						取り組みの 検証・修正	

(2) 市民、各団体等との連携・協働

本計画の進捗状況については、各媒体を通して随時公表するとともに、市民や関係団体等の意見反映に努めます。また、市民が日常的にスポーツに取り組めるよう、意識啓発活動を推進するとともに、スポーツに取り組む各団体の自主的な活動を支援し、各団体と連携・協働しながら、誰もがスポーツに参加しやすい環境づくりを進めます。

